【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和7年3月19日(2025.3.19)

【公開番号】特開2023-139779(P2023-139779A)
【公開日】令和5年10月4日(2023.10.4)
【年通号数】公開公報(特許)2023-187
【出願番号】特願2022-45485(P2022-45485)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｃ　3/14(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｃ　3/14

【手続補正書】
【提出日】令和7年3月11日(2025.3.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
グリッパと、グリッパより延びる軸と、軸の先にあるヘッドとを備え、ヘッドを歯根膜腔に挿入して、梃の作用で抜歯する器具において、
前記ヘッドは、平面視で二股に分かれて前記軸から遠ざかる方向に延びる尖った２本の突起と、それらの突起の間にあって突起同士を連結するとともに、突起の先端よりも軸方向に凹み且つ前記軸と直交する断面視で平面及び底面の双方から前記突起よりも凹んだ薄い肉厚を有するウェブとを備え、
前記軸は、前記ヘッドに連なる又は前記ヘッドに近い平面側の外面に正面視で湾曲した凹みを有する、ことを特徴とする、抜歯器具。
【請求項２】
前記ウェブにおける前記軸と交差する方向の凹部は、平面側及び底面側のいずれも前記軸から遠ざかるに連れて深くなるとともに、前記軸と直交する断面視で湾曲している、請求項1に記載の抜歯器具。
【請求項３】
平面視で前記突起の外側の形状線と接する線ａと同じく内側の形状線と接する線ｂのなす角度α、及び正面視で前記突起の平面側の形状線と接する線ｃと同じく底面側の形状線と接する線ｄのなす角度βがいずれも３０度以下である、請求項１に記載の抜歯器具。
【請求項４】
前記２本の突起は、互いの先端間に２?６ｍｍの距離、互いの先端間の中点と前記軸の先端との間に５?１５ｍｍの距離、前記中点とウェブの先端縁との間に２～７ｍｍの距離を各々有する、請求項１又は２に記載の抜歯器具。
【請求項５】
前記グリッパは、径大の胴部と、胴部と前記軸との間にあって胴部の径と前記軸の径との中間径を有する肩部とからなり、肩部の平面側の稜線が面取りされている、請求項１に記載の抜歯器具。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更

【補正の内容】
【００１０】
前記軸は、前記ヘッドに連なる又は前記ヘッドに近い平面側の外面に正面視で湾曲した凹みを有する。差し込み動作の時に人差し指をこの凹みに当てることで、誤った場所に差し込む医療事故を防ぐことができ、また経験の少ない歯科医師が器具の正しい持ち方を覚えやすくなる。
前記グリッパは、好ましくは径大の胴部と、胴部と前記軸との間にあって胴部の径と前記軸の径との中間径を有する肩部とからなり、肩部の平面側の稜線が面取りされている。持ち上げ動作の時に人差し指をこの面取り部に当てることで、差し込み動作の時と同様に医療事故を防ぐことができ、正しい持ち方を覚えやすくする。